

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4074000219		
法人名	株式会社 相即		
事業所名	グループホーム いやしの家		
所在地	福岡県糟屋郡志免町別府2丁目1番8号		
自己評価作成日	平成23年6月18日	ユニット名	癒しの里

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

協力医療機関との連携により日常的な健康管理や急変時の対応、看取りのケアまで本人・家族共に安心して生活ができるように支援している。また利用者・家族・地域・職員の相互コミュニケーションを重視し、地域密着型サービス事業所として自治体や地域との交流を通して利用者が最後までその人らしく自立した生活ができるようにサービスの提供を行っている。ケアの質の向上に関しても職員は内外共に研修会等に参加しスキルアップに向けた取り組みを行っている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

支援の根拠や背景を明確に捉える取り組みを行いながら、日々の暮らしの中で、その人らしさを見出し、様々な視点からのアプローチが行われている。協力医療機関との充実した連携は特筆すべき点でもあり、主治医は運営推進会議や家族会、時にはおやつの時間をともにしながら、馴染みの関係が築かれ、少しずつ重度化していく中で、早期の気づきや予測をもとに、日常を支えていくケアが行われている。また、専門職としての職員育成に取り組む施設長の指導のもと、職員は質の向上に向けた研鑽に努め、入居者本位のサービス提供への意識も高い。“お互いに癒し、癒される関係”づくりをめざします、という理念のもと、更なる個別ケアの追求とともに、地域拠点としての活動の広がりが大いに期待できる事業所である。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成23年7月1日	評価結果確定日	平成23年8月12日

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービス事業所として福祉サービスを通して、地域住民の健康増進に寄与し、"お互いに癒し、癒される関係"作りを目指すという理念のもとに、理念の確認を定期的にし、またミーティング等で実践についても話し合っている	ホーム名でもある「癒し」を理念の柱とし、入居者や地域との支えあう関係性を大切にしている。職員は、毎年「介護目標」を設定し、理念とともに掲示しながら、実践に結び付けている。法人代表者による講話も行われている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会で実施されているサークルへ参加したり、地域で行われる運動会や文化祭学童の集団下校の見守りを行い、地域の一員として交流している	公民館での町内サークル活動への参加や、法人としてのフェスタを開催案内し交流を図っている。小・中・高校生の体験学習の受け入れや、系列保育園、町立保育園との交流の機会がある。地域へ広報誌を配布している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議やフェスタを通して、認知症の理解や支援方法について伝えたり、体験学習、ふれあい学習で子供たちに認知症の理解や自分たちにできる支援にちて考えてもらえるような機会を作っている		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価結果や情報の公表での結果を提示するとともに、取り組み状況についても報告し意見をいただけるようお願いしている。また意見や話し合いの内容についてはサービスにつなげていけるようにしている	利用者、家族、町内会長・副会長、婦人会、町役場職員の参加により、定期開催されており、協力医の参加を得る機会もある。現状や課題を報告し、委員からの様々な視点からの意見を運営に反映するよう努めている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議やフェスタに行政担当者に参加してもらうとともに事業者からも管理者が役場へ出向き事業所の実情や取り組みを密に伝えている	運営推進会議に行政担当者の出席を得るとともに、会議のない月には役場に出向き、連絡会議を行い、連携を図っている。現在、包括支援センターとの連携を模索している。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修において身体拘束について学ぶ機会を作り、身体拘束をしないケアについても伝え、日中は施錠せず徘徊者にはスタッフが付いてケアを実施している	家族へ身体拘束の弊害やリスクを説明し、共有認識を育てている。また、言葉や薬による抑制や、排泄と周辺症状との関連性についても視点を持ちながら、拘束のないケアに取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修において高齢者虐待防止法について学ぶ機会を作り、身体拘束同様にケアについても伝え、取り組み防止に努めている		

福岡県 グループホーム いやしの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎年、施設内研修で地域福祉権利擁護事業や成年後見人制度について職員全員が学ぶ機会を持ち、各フロアに資料を配置しいつでも見ることができるようしており、また活用できるように支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について、各フロアに資料を整備し、また、家族会においても案内を行っている。これまでに制度活用の実績もあり、必要時には支援できるように体制の整備に努めている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては事前の面談や説明により、不安や疑問等が十分な話し合いを重ねることにより少しでも理解・納得していただけるように時間を取っている。契約締結前に説明や見学をしていただき、納得していただけるように努力している		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の開催時やケアカンファ時に利用者や家族等の意見、要望を伺い運営に活かすとともに、運営推進会議で家族の方に参加していただき外部者に表せる機会としている	年3回、家族会を開催しており、多くの家族の参加を得ている。各担当者は、家族との関係性を密にし、直接、意見や要望を言ってもらえるよう、情報発信、意見交換を重ねている。家族アンケートを行った実績がある。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員と個人面談を行い、運営に関する意見や提案を聞き、全体会議の場で代表者まで意見がと届くような機会を設けている	各フロアミーティングで出された職員意見は、主任会議において検討、調整されている。また年2回の個人面談を、意見表出の機会として活用している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績、勤務状況等を把握し昇格、昇給、賞与等の考課を通じて向上心を持って働けるように努めている		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集や採用にあたっては性別や年齢等は関係なく、働く意欲があれば採用するようにしている。また職員がいくつになっても働けるように配慮している	職員の採用時には、人柄や高齢者ケアへの姿勢を重視しており、年齢や性別による排除は行っていない。自己目標管理シートの活用や、年2回の個人面談を通じて、その能力の発揮や、モチベーションの確保に向けた働きかけを行っている。産休や育休の取得に向けた配慮を行い、働きやすい環境づくりに取り組んでおり、常勤職員の比率も高い。	
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	年に1回は人権教育として職員全体に研修の機会を設けると共に、施設内研修の機会に入居者の人権尊重に関して触れ職員一人ひとりが意識を持って取り組めるようにしている	職員教育計画の中に組み入れ、継続して学ぶ機会を確保している。職員のストレスケアについても意識を持ちながら、人権教育、啓発に取り組んでいる。	

福岡県 グループホーム いやしの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は管理者研修、リーダー研修等を経てスタッフ教育のスキルアップを図ると共に、実際の現場で職員が能力を活かせるように年間教育を計画すると共に個人の自己目標を明確にして達成課題や達成度を評価するシステムを導入している。また職員の介護経験等を助産して新人研修、実践者研修その他の研修を受けてもらいレベルアップを図っている		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会やG・H同士でのつながりを持ち情報交換やネットワーク作りを行い、サービスの質の向上につなげている		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前より十分に話し合う機会を持ち、不安なことやニーズの把握に努め、どのように対応していくのかをその都度明確にし、安心して利用していただけるように努めている		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人を含め、家族の抱える不安やニーズも相談から利用に至るまで十分に聞く機会を作り、対応して安心して利用していただけるように努めている		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、その状況に応じて本人及び家族が何らかの解決の糸口を見つけることができるように具体的な支援方法について提示し、精神誠意対応している。また必要時、他の施設や事業所等への連絡調整等も行っている		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	基本理念である“癒し癒される関係作り”を実践できるようにコミュニケーションを密にとり、入居者様から色々なことを学んだり、入居者のお一人お一人を職員のみならず、他入居者が一緒になりいたわったり心配したりとお互いが家族のような存在になっている		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や家族会時は一緒におやつを食べていただいたり、レクリエーションに参加していただいたり、ピクニックや敬老会等で家族と一緒に楽しみながら本人を支える一員として参加してもらっている。またケアカンファに参加してもらい家族のニーズを踏まえ役割を明確にしている		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の了解を得ながら知人の面会や外出等にてなじみの人と会う機会を作り支援している	家族や旧知の方への連絡や、年賀状、暑中見舞い等のやり取りを支援している。馴染みのパン屋さんへ出掛ける等、個別に応じた支援が出来るよう努めている。	

福岡県 グループホーム いやしの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援 に努めている	入居者の性格や機能等を考え、食事時等座る位置を工夫したりレクリエーション時など関わりあえる場を作り、お互いが友好的に 関係が持てるように支援している		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが利用終了しても地域の施設として気軽に立ち寄っていただけるように声かけすると共に、必要時は相談等も対応して いけるようにしている		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に本人の生い立ちや暮らし方、うれしいと思うことや趣味、嗜好に関してできる限りの情報を収集し、個々にあった対応に努めている。入居後も気持ちシートで定期的に使用してニーズの把握に努めている	定期的に更新されるセンター方式を一部活用した情報収集や、記録マニュアルを基に、主観的情報や客観的情報を大切に捉えた日々の記録を共有し、思いや意向、潜在的ニーズの把握につなげている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の聞き取りや日常生活の会話の中からできる限りの情報を収集して把握に努めている		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前、入居後の過ごし方の変化等も踏まえ睡眠パターン、排泄パターンの把握やアセスメント、健康診断等から現状の把握に努めている		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月、6ヶ月に家族も交えてケアカンファレンスを行っている。毎月ケアカンファレンスを行い、実施状況を報告し合い、話し合いをしている	本人、家族の意向を踏まえ、入居者の笑顔につなげる為の、個別、具体的な目標が設定されている。個別の支援の背景や根拠を明確に捉え、作成過程研修も実施されている。日々の実施記録や毎月の評価、半年毎の詳細なADL評価等をもとに、見直しにつなげている。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録の中で、細かな変化や気づきを記入し、職員間で共有すると共に毎月のカンファレンスでケアの実践と介護計画の見直しを行っている		

福岡県 グループホーム いやしの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	認知症のため、リハビリ目的の入院が困難な骨折後の入居者に対して週に2回ほどリハビリ通院にお連れしたりと柔軟な支援を行っている		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	活用できる地域資源の把握をしながら本人の豊かな暮らしにつながるものを選択している		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の確認や必要な医療の継続について十分な話し合いをし、希望に沿うように主治医を交え支援している。月に2回の往診と年に2回の定期健康診断に加え、必要時は専門科を受診し適切な医療を受けられるよう支援している	カルテには入居者の写真が貼られ、運営推進会議や家族会への参加、時にはおやつ時間を共に過ごす等、入居者・家族と協力医との顔馴染みの関係がある。また、保健師である管理者の経験や、職員の日々のかかわりの中での気づきを大切に捉え、かかりつけ医や協力医療機関、専門医、訪問看護等との充実した連携体制を構築し、早期対応につなげている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤看護師が毎日健康状態の把握をし、必要な指示を出すと共に適切な受診が受けられるように常に医療機関との連携をとり支援している		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合は入院時より病院関係者との連携を密に行い、本人や家族のニーズに応じて早期に退院できるように努めている。また常日頃から病院と連携し、信頼関係の構築に努めている		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべてのことを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合や終末期のあり方について話し合いをし、必要時また希望時に看取りに関する同意書と療養計画書を主治医、本人(家族)、施設の三者で作成し、方針の共有をしている	入居時に、重度化や終末期に向けた説明や意向確認を行っている。また、運営推進会議や家族会において、主治医を交えた話し合いが行われている。状況の変化に応じて、意向確認や同意書を作成し、方針を共有している。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを整備すると共に研修会において応急処置や急変時対応についての実践に即したシュミレーションを行い、備えている。また職員個人でも救命講習等に参加している		

福岡県 グループホーム いやしの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の消火訓練、避難訓練を実施し避難方法をみにつけると共に運営推進会議にて町内への呼びかけを行っている	年2回、併設する施設とともに訓練を実施しており、避難方法についても、定期的に確認、検討を行っている。また、運営推進会議にて協力を呼びかけている。水害時に備えて、土嚢を準備している。	
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の言動で人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないよう声かけに注意し対応している	充実したアセスメントや日々の記録を共有し、入居者個々人の理解に努めることで、人格の尊重や、尊厳を損ねることのない対応となるよう心掛けている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かを行う際は本人の意志を確認し、自己決定できるように働きかけている		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や排泄時間、食事時間に関してもその方のペースを優先し希望に沿った支援をしている		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	近隣の美容院へ家族やスタッフが同行し、対応している。またカットボランティアを利用したり、なじみの美容院へは家族に協力をお願いするなど本人の望む店にいけるように努めている		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おやつ作りに参加していただいたり、後片付けを手伝っていただいたりと利用者と職員と一緒にやっている	栄養バランスはもとより、視覚や形状にも、個別に応じた細やかな配慮を行いながら、「食を楽しむ」ことを大切に支援している。買い物や後片付け等に、力を発揮してもらっている。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに関しては栄養士が献立をたて、栄養管理を行っている。水分摂取量を毎日チェックし、飲水量が少ない方にはお茶ゼリーで提供したりと水分量が確保できるように工夫している		

福岡県 グループホーム いやしの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアと口腔内のチェックを行うと共に汚れや口臭のある方は歯科受診や歯科往診をしていただき口腔内の清潔保持を支援している		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを個々にチェックし、個々に合わせたトイレ誘導を行っている。便意、尿意がない全介助の方でも本人の負担にならない範囲でポータブルトイレやトイレでの排泄を心がけている	個別の状況を把握し、誘導や介助の方法、時間、間隔等を介護計画の中にも示しながら、排泄の自立に向けた様々な視点からのアプローチを行っている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為の飲食物の工夫や水分摂取の促し等で個々に応じた予防を行っている		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には曜日、時間の設定をしているが一人ひとりの状況に応じて対応している	基本的な週3回の入浴日を設定しながら、状況に応じた対応に努めている。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	座位の耐久性や身体機能のアセスメントを行い適宜休息をとっていただいたり、安心して眠れるように環境設定や声かけを心がけている		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に関しては薬情を読み把握すると共に、確実な服薬ができるように毎食、個々の錠剤数をチェックし口腔内投与と口腔内確認まで行っている		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一緒に買い物に行きおやつを購入したり、編物をされたりそれぞれが楽しみをもてるように支援している		



福岡県 グループホーム いやしの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>日々の散歩や買い物を日常的に行い、定期的に車での外出やドライブを行い戸外に出かけられるように支援している</p>	<p>ユニットにより異なるが、週3回の買い物や、周囲の保育園・小学校をまわる散歩コースを設定している。屋上庭園も設けられており、気軽に外気浴を行うことができる。今後は、個別の外出支援の充実に向けて、取り組む意向がある。</p>	
52		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金の自己管理は困難なため、事務所で管理し、本人の希望に応じて買い物時に手渡して支払いをしていただいたりしている</p>		
53		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>レクレーションとして絵手紙や季節毎のあいさつのはがきなどを書いていただいたりしている。本人の希望があれば家族への電話等の支援をしている</p>		
54	(22)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>フロア内に季節が分かるような工夫をし、なじみのある音楽やビデオを流したりして居心地よく過ごせるように配慮している</p>	<p>リビングを中心として、周囲には吹き抜けとなる光庭が配されている。季節に応じたさりげない飾り付けや、入居者の方々の豊かな表情を捉えた写真が掲示されている。屋上庭園や玄関前にはベンチが設置され、気軽に外気浴を行うことができる。</p>	
55		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共用スペースでも1人ひとりに合った椅子の高さや居場所を確保し、利用者同士もおしゃべりができるように配置している</p>		
56	(23)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室は家具や寝具、写真やぬいぐるみ、趣味の道具等個人のなじみのものや思い出の品を自由に持ち込まれ落ち着いた過ごせる場所となっている</p>	<p>趣味とされている編み物の道具や、写真、ぬいぐるみ等が持ち込まれ、居心地の良さや安心できる環境作りへの配慮が行われている。吹き抜け部分も含め、各部屋二箇所の採光と通風が確保されている。</p>	
57		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>リビングや廊下、トイレには手すりを設置し洗面台は入居者に合った高さで設定している。テーブルや椅子など一人ひとりの機能や高さに合わせて選択し、自立して行えるように工夫している。また一人ひとりの機能に応じて方法や環境を工夫すると共にケアプランに沿って混乱や失敗のないケアの統一を図っている</p>		